



**単元の目標**  
自分の伝えたいことが正しく伝わるように表現や表記を確かめながら文章を書くことができる。

単元の主な指導事項

		主な指導事項 (記号)
知識及び技能		(1) 文や文章 カ
思考力・判断力・表現力等	B: 書くこと	推敲 エ

**単元の系統性**

第2学年「じゅんじょよく書こう」文章を読み返す習慣を付けるとともに間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

第4学年「わたしの考えたこと」文章全体の構成や書き表しなどに着目して、文や文章を整えること。

中学第1学年 B書くことエ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

学習過程	主な学習活動	言語活動	指導上の留意点
第一次 学習目的の理解と見通し	①学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる。 ・誰に何を伝えたいのか目的を明確にする。 ・推敲の視点をつかむ。	正しく伝わるよう意識して作文を読み直し、伝えたいことが	○市役所に掲示してもらい、自分の伝えたいことをたくさんの人に伝えるという目的意識と、そのために文章をどのように直せばいいのかという課題意識を持たせる。
第二次 理解と表現の螺旋的な学び	②教師のモデルで文章を読み直す時のポイントについて話し合う。 ・学習したことを基に自分の書いた作文を推敲する。		○伝えたいことが詳しく書かれていないモデルを示し、本時におさえたいことを確認する。 ○伝えたいことが伝わる文章になっているかに着目して内容の推敲をさせる。
第三次 表現活動・単元の振り返り	③推敲した作文を清書する。 ・単元の振り返りをする。		○伝えたいことが伝わる文章になっているか、赤鉛筆で加筆・修正した言葉に気をつけて清書する。
<p><b>本単元終了時の目指す児童の姿</b> 自分の伝えたいことが正しく伝わるように内容や形式を確かめながら推敲しようとする姿。</p>			

**研究主題**：目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方  
—学習過程の工夫と情報の扱い方に関する指導を通して—

**研究主題に関わる授業づくりのポイント**

目的に応じて推敲していくために、市役所に掲示してもらい、たくさんの人に読んでもらうという相手意識・目的意識を持たせる。まずは、自分の伝えたいことは何かを明確にしたうえで、全体で推敲のポイントを押さえる。教師が作った作文(モデル)を全体で推敲し、自分の作文を書き直すことにつなげていく。そして、自分の伝えたいことが伝わる文章になっているのか、伝えたいことがはっきりしているか、ペア対話することで自分の思いが明確になるようにしていく。そのように推敲するなかで、形式(主語と述語との関係や修飾語、漢字や言葉の使い方など)についても整えながら正しく書く力を身に付けさせたい。

全体で共有したり、再度個人で読み返したりして、始めに書いた作文よりも伝えたいことが相手に正しく伝わる文章になったことを実感させることで、目的に応じて必要な内容を整理する力、自分の考えを明確にして書く力を目指していきたい。

指導と評価の計画 (全3時間)

学習過程			学習課題《 水辺の楽校について書いた作文を読み直そう》
			○指導目標 ・学習内容、学習活動
			評価規準 (評価方法)
第一次	1	学習の見直し 内容の検討	○本単元の課題を知る。 ・誰に何を伝えたいかを明確にする。 ・伝えるために必要なことは何かを考える。 ・今まで推敲をする際にどんな視点で読み返してきたかを思い出す。  関 付けたい力を知り、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (発言・ノート)
第二次	2 本時	推敲 考えの形成	○自分の書いた文章が相手に伝わる表現になっているか確かめる。 ・教師のモデルを推敲する。 ・学習したことを基に自分の作文を推敲し読み直す。  書 伝えたいことが相手に伝わる文章になっているか推敲している。 書 主語と述語との関係などに注意して正しく文を書いている。 (作文・行動観察)
第三次	3	共有	○推敲するためのどんな力が付いたか振り返る。 ・推敲した作文を清書する。 ・推敲するためのポイントを振り返る。 ・推敲のよさを振り返る。  書 これまで学習したことを生かして、相手に伝わる文章になっているか推敲している。 (作文・ノート)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の手立て

- ・推敲した作文を、市役所に掲示してたくさんの人に読んでもらうというゴールを示し、意欲を引き出す。
- ・アドバイスをもらったり、加筆・修正したりしたことを赤鉛筆で書く。
- ・常に相手意識を持って作文を読み返すことで、主体的な学びにつなげる。
- ・困っていることを友だちに伝えたり、よりよい文章になるようにアドバイスをしたりしている児童がいたら評価し、主体性を引き出す。

第二次 自分の書いた文章が相手に伝わる表現になっているか確かめる。

児童の思考の流れ

○○くんは、水生生物がたくさんいてびっくりしたことを書いているけど四万十川のどんなことを伝えたいの？

思っていたよりも水生生物がたくさんいたから、きれいな川なんだろうと思ったよ。だから、水がきれいな四万十川を守っていくことの大切さを伝えたいな。

水生生物がたくさんいたんだから、ずっと生き物が住める川にしていきたいことを伝えたいんだね。

水生生物のことだけでなく、これからの四万十川のことも付け足そう。このまま生物が住める川を続けていってほしいことを書こう。

この文を読んだら、何かおかしいなと思ったんだけど……。どう直していいかわからないな。

主語が「魚は」だから、述語が「うれしかったです」はおかしくない？何を言いたいかわからないよ。主語を変えたらどう？

主語を「ぼくは」に変えたら、誰がうれしかったのが分かりやすくなった。

(1) 本時の目標

自分の伝えたいことが相手に正しく伝わる内容や形式になっているか推敲することができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	主な発問(※) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(△) 評価(☆)
見通す	1. 推敲のポイントを押さえる(確認する)。 2. めあてを確認する。		
	めあて 伝えたいことが伝わる文章になっているかに着目してすいこうしよう。		
思考・判断・表現する	3. 教師のモデルを推敲して読み直す。	○四万十川を大切にしたいことが書かれていない。 ○文末がおかしい。	△伝えたいことが詳しく書かれていないモデルを示し、本時におさえたいことを確認する。
	4. 自分の作文を推敲する。 【個人→ペア】	※自分の伝えたいことが正しく伝わる文章になっているかを中心に作文を推敲しよう。 ○ぼくの作文には四万十川を大切にしたいことが書けていないから、最後に書き加えよう。	△伝えたいことが伝わる文章になっているかに着目して内容の推敲をさせる。  △赤で加筆・修正させる。 △内容の推敲をしながら、主語と述語との関係、修飾語などにも注意して表記についての推敲もさせる。
	5. 推敲したところを全体で共有する。 【全体】	○最後に、「四万十川を守りたい」という文を付け加えました。 ○魚がいることをくわしく書きたかったので、関係ない文のをけました。 ○わたしは、主語と述語があっっていなかったので述語を変えました。	
	6. 再度自分の作文を推敲する。 【個人】		△推敲の視点をもとに再度推敲させる。 ☆伝えたいことが相手に伝わる文章になっているか推敲している。 ☆主語と述語との関係などに注意して正しく文を書いている。(作文・行動観察)

まとめ振り返る	6. 今日の学習を振り返る。	※始めの文章と推敲した文章を比べ、良くなった理由を書きましょう。 ○始めの文はしたことだけになっていたけど、人に伝えるために呼びかける文を入れた。 ○主語と述語がつながる文になるように考えて書き直すことができた。	△始めの文章と推敲した後の文章と比べ良くなったことを実感させ、その理由をふり返りに書かせる。
	家庭学習 推敲チェックリストを使ってチェックしながら推敲してくる。		

(3) 板書計画

七月十一日(木)

めあて  
伝えたいことが伝わる文章になっているかに着目してすいこうしよう。

ポイント  
伝えたいことがつたわる内容になっているか  
主語・述語があっているか  
文字のまちがいがいないか  
漢字を使っているか

教師のモデル文

直したこと  
・「四万十川を守っていきましょう」とさい後に書いた。  
・コツを詳しく書き足した。  
・文を入れかえた。  
・わたしは・・してくれました。↓わたしは・・してもらいました。  
・四万十川はきれいな川です。↓四万十川はきれいな川でした。

ふりかえり  
始めの文とくらべ良くなった理由

「○○○○○」と思ってもらうために

(4) 準備物

モデル文、書画カメラ